

池田優李佳・太田芽生・室田怜奈・高橋広樹(獣医眼科)・高木佐保・菊水健史



研究の背景と目的

ネコはイヌとならぶ伴侶動物である。近年の社会認知研究などで、ネコもヒトと効果的にコミュニケーションを取ることが出来るといわれている(高木, 2023)。ヒト・イヌではアイトラッキングという手法を用いて、モニター上に映し出される画像のどこを注視しているかが明らかにされた(Guo & Mills, 2020)。特に視線を用いたコミュニケーションはイヌと異なった側面が明らかになりつつある(Park et al., 2023)。

そこで今回は、ネコがヒトの顔を見る時、どこのパーツを注視しているか、またそれはヒトやネコの情動状態や年齢によって異なるのかをアイトラッキングを用いて調べた。

研究・調査方法

被験体・実験場所

一般家庭で飼育されているネコ13匹が調査に参加した。大学および家庭で実験を行った。キャリブレーションに通過した7匹のデータを解析に用いた。

装置

Tobii社のアイトラッキング (TX300) を用いた。

テスト刺激

ネコおよびヒトの①大人・子どもの写真セット、②情動状態(ポジティブ・ネガティブ)の異なる写真セットをそれぞれ2セットずつ準備した(図1)。

調査方法

保定者がネコをモニターの前に座らせ、キャリブレーションを行った。キャリブレーションに通過した個体のみ、テスト刺激を呈示した。モニターとの距離は約60cm程度だった。



図1 実験に使ったテスト刺激の一例。上段は大人/子どもの写真を用いた。下段は情動状態の異なる写真を使った。各写真は2秒ずつ呈示した。

結果と考察

ネコの画像を映したときは、目を直視することはほとんどなく、額の辺りを見ていることもあった(図2上段)。

ヒトの顔の画像を映したときも、ネコの写真を呈示した時と同様、「怒った顔」「笑った顔」のどちらも目と目の間や鼻の辺りをみていることがわかった(図2下段)。

ネコにおける直視は「敵意」というシグナルになる為、直接目を見ることはないが顔の中心部を見ることにより表情を読み取っていると考えた。

また、目の周辺を見ることはあり、注視せずとも横目でヒトの感情を読み取っているのではないかと考えた。

イヌは飼い主と視線を使ってコミュニケーションを行うことがわかっている(Nagasawa et al., 2015)。イヌとネコでは視線コミュニケーションが異なるのかもしれない。

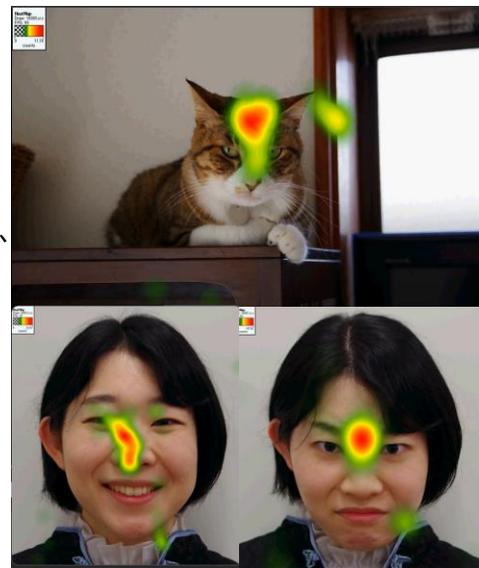


図2 ネコ・ヒトの写真を見せたときにネコがどの箇所をみていたか。長く注視するほど赤に変化する。ネコ・ヒトともに額を注視していることがわかる。

これから

- ・ネコの視覚認知について異種での表情や年齢による比較
- ・飼い主、同居ネコ、イヌなどにおいてどの部位を注視しているのか比較
- ・ネコとイヌの視覚認知の比較

